

平成29年9月19日

ALIC/USMEF 定期情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、米国食肉輸出連合会（USMEF）と定期情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本、米国の食肉の需給状況等について意見交換を行う場として両国において、原則として毎年度交互に開催しており、今回で通算31回目となります。

記

1 日時：平成29年9月13日（水）午前10時00分～12時00分

2 場所：ALIC会議室

3 参加者

ALIC

宮坂（理事長）、近藤（副理事長）、小林（総括理事）ほか

USMEF

フィリップ・M・セング（会長）、ジョン・ヒナーズ（副会長補）ほか

4 会議内容

セング会長と宮坂理事長の挨拶の後、双方から米国及び日本の食肉需給について、説明し、意見交換を行った。

<USMEFからの食肉需給についての説明概要>

【牛肉関連】

- ・飼料価格が安価で推移し、肥育期間が長期化していることや、遺伝的改良の成果等から、米国内では、チョイス級に格付けされる肉牛の比率が上昇している。
- ・2017年の牛肉輸出量は、アジア市場向けの輸出が堅調であること等によ

- り、前年比8%の増加が見込まれる。
- ・対中輸出に関しては、中国向けサプライチェーンの構築に時間を要するため、当面は他のアジア市場に影響を与えることはないとしている。

#### 【豚肉関連】

- ・米国内では新規豚と畜場が続々と稼働し始めていることから、今年の年末までに、と畜処理能力が前年を7%上回る見込み。
- ・米国食肉業界は2018年農業法で口蹄疫のワクチンバンクが拡充されることを望んでおり、今後の経過が注目される。
- ・中国・香港の豚肉輸入動向については、1～7月の期間では、内臓の輸入が堅調に推移する一方、部分肉輸入量は前年を下回ったため、全体として前年を下回った。ただし、2017年通年としては、過去最高を記録した2016年に続き過去2番目に多くなると見込んでいる。

#### <ALICからの食肉需給についての説明概要>

日本の直近の牛肉および豚肉の需給動向、全国和牛能力共進会等について説明。

お問い合わせ先

調査情報部 玉井、野田

電話 03-3583-9804、9533